



ER のミニマムリクワイアメントって何だろう？

評者 | 志賀 隆 国際医療福祉大学 准教授・救急医学

2002 年の夏、那覇空港に東京から研修医が到着した。空港からバスに乗ってたどり着いた先は「沖縄米海軍病院」だった。研修医は、米軍病院の救急部門で採用を目指して、必死に実習をしていた。その際に、米国の救急医学レジデンシーを卒業したばかりの日焼けした指導医がパラパラとポケットブックをめくっていた。

「すみません。ちょっと私にも見せてもらえませんか？」と、ポケットブックを手を取った研修医はびっくりした。手のひらサイズのポケットブックの 1 頁 1 頁にぎっしり情報が詰まっている。頭部 CT の適応、頸椎画像撮影の適応から抗生物質の使い方、肺塞栓のプレディクションルールなど、まさにこれが「ER のミニマムリクワイアメントだ！」と研修医は思った。エビデンスの大事なところが見やすくコンサイスにまとまっている。しかも、日本のハンドブックにありがちな根拠文献のない“オレ流”の列挙ではない。

その本の名前は『タラスコン救急ポケットブック』である。まだスマートフォンのなかった時代も今も、非常に使い勝手のよい本である。そして、人気の証しとして改訂が続いている。今回、この名著が翻訳された。翻訳チームは、今は日本屈指の ER となった東京ベイ・浦安市川医療センターを、2011 年から私と一緒に作り上げた救急の仲間たちである。

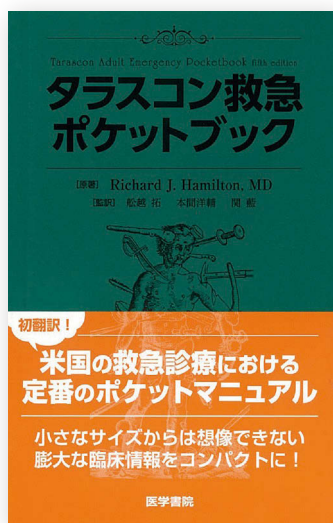
ミニマムを「短い時間でその場で」学べる

本書には、次のような特徴がある。

- 翻訳本にありがちな、出版時に情報が遅れていることを避けた。
- 日本に採用されていない薬剤には、脚注を豊富に設けた。
- 日米の薬剤対比表を巻末に設けた。

わが国にも、初期臨床研修必修化が始まり 10 年以上が経った今でも、不安な気持ちを持ちながら忙しい救急外来で診療をしている初期研修医のみなさんがいる。目の前の患者さんにベストな医療を提供しながら、「短い時間でその場で学ぶ！」のが救急外来の醍醐味である。そんな研修医のみなさんや、「腹痛はいつも怖い……」「胸痛には嫌な思い出がある」といった専門外の領域を担当せねばならない当直医の先生方の強い味方になる本である。専攻医の先生方は、「君の判断の背景にはエビデンスがあるのか？」と言って本書の 1 頁を見せて 3 分レクチャーをしてもよい。ぜひ本書を手にとって一歩進んだ救急診療につなげていただけたらとお勧めする。

G



タラスコン 救急ポケットブック

Richard J. Hamilton = 原著
船越 拓、本間洋輔、関 藍 = 監訳

定価：本体 2,600 円＋税
A6 変型・308 頁／医学書院／2018
[ISBN978-4-260-03547-7]